

# イリノイ大学シカゴ校における「Fieldwork」「Student Teaching」の特質

— 信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」との比較を通して —

谷塚光典 附属教育実践総合センター

キーワード：教育実習，臨床経験科目，リフレクション，イリノイ大学シカゴ校

## 1 はじめに

筆者は、平成 15 年度文部科学省在外研究員<sup>1)</sup>として、イリノイ大学シカゴ校 (University of Illinois at Chicago ; 以下, UIC) に客員研究員 (Visiting Scholar) として滞在し、教育実習や臨床経験<sup>2)</sup>に関連する授業に出席しながら、教員養成におけるティーチング・ポートフォリオの活用に関して研究を進めてきた。UIC の教育学部 (College of Education) に所属する学生は、臨床経験科目の履修を通して、自己の過去の経験と現在の臨床経験とを結びつけながら、臨床経験における課題の明確化とさらなる教育実践をくり返している。

谷塚 (2004a) では、信州大学教育学部における「学校教育臨床基礎」と比較しながら、UIC 教育学部 3 年次生 (Junior) が履修する「ED305: Introductory Fieldwork in the Elementary Education」(以下, ED305) の特質を明らかにしてきた<sup>3)</sup>。本稿では、信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」(以下, 事前・事後指導) との比較を通して、UIC 教育学部 4 年次生 (Senior) が履修する ED315 「Fieldwork in the Elementary Education II」(以下, ED315) および ED325 「Student Teaching in the Elementary Grades」(以下, ED325) の特質を明らかにすることを目的とする。

## 2 ED315 「Fieldwork in the Elementary Education II」の概要

### (1) ED315 の構成

ED315 は、4 年次の秋学期 (前期) に履修する臨床経験科目である。ED305 と同様、講義 (セミナー) と実習 (臨床経験) の組み合わせとなっており、週 1 回のセミナー (1 回あたり 170 分) とシカゴ公立学校 (Chicago Public Schools) における臨床経験 (週 3 日) が並行して進められる。

大学でのセミナーは、事前に 3 つにクラス分け (cohort) されており<sup>4)</sup>、1 クラスあたり約 25 人ずつ所属している。筆者は、このうち Dr. Eleni Katsarou 先生が 23 名の学生を担当する月曜午前 9:00 ~ 11:50 (途中 15 分程度の休憩あり) の授業に出席した<sup>5)</sup>。このセミナーを担当する Seminar Instructor が、セミナーと同じ学生の実習校を巡回して参観する Field Supervisor の役割も果たす。

ED315 の目的として、次の 5 点が挙げられている。

1. 学校についての価値観や信念を形成する上での個人的な記憶に気づくこと、そして、これらが教える態度や行為に対してどのような影響を及ぼすかについての認識を深めること
2. 文化的・社会的要素が学校や児童<sup>6)</sup>の学習に対してどのように影響を与えるかを理解すること
3. 教室談話の多様な伝統を調査すること
4. 学校におけるカリキュラムや学習指導や評価に関する理解を深めること
5. すべての児童の教育における効果的で道義をわきまえた対応を調査すること

表1 ED315「Fieldwork in the Elementary Education II」の授業計画（抜粋）

週	内容
第1～2週	Memories of Schooling: Wrestling with Tradition Learning In and Out of School
第3～4週	School Ethos: Schools and Classrooms as Cultures
第5～7週	Classroom Discourse: Language Use in the Classroom
	中間試験
第8～10週	Curriculum: What's Worth Working?
第11～12週	Instruction and Assessment: Creating Communities of Learners
第13～14週	"Classroom Management:" Coping with Chaos

このように、ED305等の3年次の履修を受けて、そしてED325での本格的な教育実習に向けて、児童理解をふまえた学習指導計画を立案できるようになることを目的としている。

## (2) ED315の授業計画（シラバス）

ED315の授業計画は、[表1]に示すとおりである。この表には、毎週月曜日のセミナーで取り上げるトピックスを挙げたが、配布されたシラバスには、この他、担当 Seminar Instructor の連絡先やオフィス・アワー、指定教科書、参考図書、授業の目的、課題、評価の観点等が記載されている。

[表1]に示すように、2～3週間ごとにテーマが設定されており、そのテーマに対応した教科書や関連文献（適宜配布）を用いた Literature Circle 方式のディスカッションが行われる。

毎週の講義（セミナー）の展開は、およそ次の通りである。学生は毎回同じテーブルに着席する。出席確認と事務的連絡の後、1～2名の学生が、最近の臨床経験での出来事を発表し、それに関して意見交換をする。続いて、教科書を用いて、あらかじめ指定された章に関する Literature Circle 方式のディスカッションが行われる。学生は、あらかじめ、2～3点の疑問点・セミナーでディスカッションしたい点を挙げておき、グループでどの点についてディスカッションするか決めてから、実際のディスカッションを始める。休憩の後、ディスカッションした内容をグループの代表が発表し、クラス全体でのディスカッションとなる。そして、授業の最後に、次週以降の課題（読むべき教科書の章や配布した論文）を指示し、1回のセミナーを終える。

## (3) ED315の評価

ED315では、成績評価の基準を次のように設定している。

- |                |     |
|----------------|-----|
| 1. 教室での出席と参加   | 10% |
| 2. 探究プロジェクト／実習 | 20% |
| 3. ジャーナル       | 10% |
| 4. 筆記試験（中間試験）  | 20% |

主要な課題：教科書を用いた Literature Circle、毎週のジャーナル、教室談話分析、  
探求プロジェクト、サイエンス・プロジェクト（ED321と連携）

#### (4) ED315 履修者用ファイルの配布

ED315 を履修する学生は、記入・提出すべき書類や教育実習の留意事項等をまとめた「Teacher Candidate File」を受け取る。なお、このファイルと同内容のファイルは、教育実習生を通して、実習校の指導教員 (Mentor Teacher) にも渡される。このファイルに含まれる書類は、次の通りである。

- Contents of Packet ED315
- UIC College of Education Mission Statement
- Elementary Education B. A. Courses
- UIC Mentor Qualities
- Excerpt on Mentoring Teacher Candidates
- General Guidelines for UIC Teacher Candidates
- Mentoring During the Fall Fieldwork Experience
- How This Fall Fieldwork Experience Might Play Out
- UIC Mentor Institute Article
- Curriculum Planning and Teaching Guide
- Assessment of UIC Teacher Candidates
  - ・ UIC Elementary Education Principles and Illinois Professional Teaching Standards
  - ・ Teacher Candidate Assessment Form
  - ・ Teacher Candidate Feedback Form
- Personnel List
- Council on Teacher Education Field Experience Log
- Application for Tuition and Service Fee Waiver

このように、このファイルには ED305 用ファイルとも共通の書類が含まれるが、臨床経験科目の履修の進展に伴って、評価フォームや指導案作成ガイドのように、教育実習生として授業を進めるために必要な書類が加わっている。

### 3 ED325 「Student Teaching in the Elementary Grades」の概要

#### (1) ED325 の構成

ED325 は、4 年次の春学期 (後期) に履修する臨床経験科目である。ED305 や ED315 と同様に、講義 (セミナー) と実習 (臨床経験) の組み合わせとなっており、週 1 回のセミナー (1 回あたり 170 分) とシカゴ公立学校における臨床経験 (週 4 日) が並行して進められる。

大学でのセミナーは、約 25 名ずつ 3 つにクラス分けされており、このうち Dr. Eleni Katsarou 先生が担当する水曜午後 1:00~3:50 (途中 15 分程度の休憩あり) の授業に出席した。ED315 と同じくセミナー担当の Seminar Instructor が、セミナーの学生を参観・評価する Field Supervisor の役割も果たすが、筆者が出席していたクラスでは、もう 1 名 Field Supervisor が加わって、より多くの回数の参観ができるような体制となっていた。

#### (2) ED325 の評価

ED325 の評価は、セミナーへの出席と教科書に基づくディスカッション、これに加えて、教育実習評価フォームを用いた評価が行われる。しかし、Seminar Instructor も明言しているように、この授

業ではポイント・システムは用いずに、全員が“A”をとることを求められている。

### (3) ED325 履修者用ファイルの配布

ED325 を履修する学生は、ED305 や ED315 同様、記入・提出すべき書類や教育実習の留意事項等をまとめた「Teacher Candidate File」を受け取る。このファイルには書類が入っている。

- Contents of Student Teaching Folder, 2004
- UIC College of Education Mission Statement
- Elementary Education Program Requirements
- UIC Mentor Qualities
- Excerpt on Mentoring Teacher Candidates
- General Lesson Preparation Guidelines
- Curriculum Planning and Teaching Guide
- General Guidelines for UIC Teacher Candidates
- Student Teaching Responsibilities
- Assessment
  - ・ UIC Elementary Education Principles and Illinois Professional Teaching Standards
  - ・ End-of-Student Teaching Sample Letter of Assessment
  - ・ Student Teaching Evaluation Form
- UIC Council on Teacher Education Application for Tuition and Service Fee Waiver

このように、ED305 用や ED315 用ファイルと共通・類似の書類も含まれるが、本格的な教育実習を進めるにあたって、教員免許を申請するためにそして教師になるために必要な書類も加わっている。

## 4 UIC における ED315・ED325 の特徴

UIC における臨床経験科目の特徴として、次の5点を挙げることができよう。

- ① 教育実習評価フォームを使った評価
- ② Field Supervisor による参観・評価
- ③ 講義（セミナー）と実習（臨床経験）の組み合わせ
- ④ セミナーでの教科書の使用
- ⑤ ティーチング・ポートフォリオの作成

### (1) 教育実習評価フォームを使った評価

前述の「Teacher Candidate File」に含まれている ED315 用評価フォームは、次の4つの観点からなる「UIC Elementary Education Principles」に従っている。

- Attention to self as learner
- Attention to content knowledge and an understanding of cultural relevance
- Attention to students and their learning (in and out of school)
- Attention to teaching, curriculum and assessment for student learning

たとえば、「Attention to students and their learning (in and out of school)」については、[表2]

のような下位項目が設定されており、各項目について、4段階で評価した上でさらなる成長のための課題を記述するようになっている。なお、この4段階評価の説明として、「類似の教育経験を持っている他の教育実習生と比べて、当該の教育実習生の特徴や行動を考慮すること」と付記されている。

また、ED325用評価フォーム<sup>7)</sup>は、次の11つの観点からなる。ED315と同様に、それぞれの観点について、4段階で評価したうえで、さらなる成長のための課題を記述するようになっている。

- 1. 教科内容に関する知識 (Content Knowledge)
- 2. 人間の発達 (Human Development)
- 3. 多様性 (Diversity)
- 4. 指導計画 (Planning)
- 5. 学習環境 (Learning Environment)
- 6. 学習指導 (Instructional Delivery)
- 7. コミュニケーション (Communication)
- 8. 評価 (Assessment)
- 9. 協働的な連携 (Collaborative Relationships)
- 10. リフレクションと専門的成長 (Reflection and Professional Growth)
- 11. 専門的な振る舞いとリーダーシップ (Professional Conduct and Leadership)

なお、この11観点は、イリノイ州教育委員会が作成している「Illinois Professional Teaching Standards」<sup>8)</sup>に対応している。また、UICが独自に作成してED315用評価フォームでも用いてきた「UIC Elementary Education Principles」と対応していることが示されている。

[表2] ED315用評価フォームにおける「Attention to students and their learning (in and out of school)」の評価項目 (抜粋, 筆者訳)

(学校内・学校外での) 児童と、児童の学習について	評価	さらなる成長のための課題
児童の考え方や貢献を尊重すること		
すべての児童を学習経験にかかわらせること		
学習を支えるために家庭と一緒に取り組むこと		
学校や地域社会への興味を示すこと		
児童間の集団という感覚を養うこと		
児童のニーズに合った方略を採用すること		
不適切な行動を効果的に管理すること		
テクノロジーを教室で適切に利用すること		
追加コメント：		

また、この評価フォームを用いて、教育実習途中の中間評価と教育実習終了時の最終評価として2回の評価が行われる。この評価は、UICのField Supervisorによる評価、実習校のMentor Teacherによる評価、そして、教育実習生による自己評価、という三者によって、同一のフォームを用いての評価が行われる。すなわち、教育実習生にも評価の観点と下位項目が事前に提示されているため、教育実習生はフォームに示された観点に沿って、ひいては、州で定められている「Illinois Professional Teaching Standards」を満たすように、教育実習を進めることになる。

#### (2) Field Supervisor による参観・評価

ED325を担当するSeminar Instructorは、担当する教育実習生のField Supervisorとして、シカゴ公立学校における実習校を巡回して、教育実習生の授業を参観する。ED325では、1 Semesterで8～10回の授業(教壇実習)を行うが、そのうち、3～4回の授業をField Supervisorが参観する。参観後は、実習校の指導教員であるMentor Teacherと情報交換したり、実習生を直接指導したりする。それは、2者で行われることもあれば、3者がそろって行われることもある。

そして、Field Supervisorは、前述の教育実習評価フォームを用いて、教育実習生を評価する。

#### (3) 講義(セミナー)と実習(臨床経験)の組み合わせ

ED305だけでなく、ED315・ED325ともに、シカゴ公立学校における教育実習と並行して、週1回大学に集まって、Field Supervisorが担当するセミナーに参加する。セミナーの概要については、前述の通りである。すなわち、講義と実習とを組み合わせることによって、実習校における臨床経験を研究的に省察する機会を大学で確保・提供している。

また、セミナーの時間に合わせて、教員免許申請や卒業にむけての事務連絡や書類記入・提出も行われる。

#### (4) セミナーでの教科書の使用

ED315およびED325では、次の書籍が教科書として指定されていた。

- Daniel, H. and Bizar, M. (1998) *Methods That Matter: Six Structures for Best Practice Classrooms*. Stenhouse.
- Delpit, L. (1994) *Other People's Children: Cultural Conflict in the Classroom*. New Press.
- Heath, S. B. (1983) *Ways with Words: Language, Life and Work in Communities and Classrooms*. Cambridge University Press.
- Oakes, J. and Lipton, M. (1999) *Teaching to Change the World*. McGraw-Hill.
- Posner, G. J. (1993) *Field Experience: A Guide to Reflective Teaching*, Fifth Edition. Pearson Education.

これらの指定教科書から、毎週指定されたページ・章について、4～5人の小グループになって議論をすすめる。例えば、『*Other People's Children*』は、文化的・民族的・経済的・言語的に多様なアメリカの教室で実際に起こっている状況について書かれた書物である。この教科書に描かれているさまざまな葛藤場面を、自己の教育実践と対照・統合させながら、議論を深めていく。

#### (5) ティーチング・ポートフォリオの作成

米国では、ティーチング・ポートフォリオの作成に関する書籍が多く出版されており（例えば、Bullock & Hawk, 2001; Campbell et al., 2003; Costantino & De Lorenzo, 2002）、最近では、ティーチング・ポートフォリオ作成システムを用いたデジタル・ティーチング・ポートフォリオが主流になってきている（例えば、Dice & Goldenhersh, 2001; Kilbane & Milman, 2003）。

UIC においても、ED325 では、教育実習生はティーチング・ポートフォリオを作成し、セミナー最終週にティーチング・ポートフォリオの発表会を行う<sup>9)</sup>。ティーチング・ポートフォリオは、「Illinois Professional Teaching Standards」に従って作成されており、ED325 で作成したポートフォリオをもとに、教員免許申請用や就職面接用のティーチング・ポートフォリオを作成する場合もある。

なお、UIC では、新たに「TaskStream」<sup>10)</sup> という Web 上でのデジタル・ティーチング・ポートフォリオ作成システムを導入し始めており、今後は、紙媒体のポートフォリオではなく、デジタル・ティーチング・ポートフォリオに移行するとのことであった。「TaskStream」を用いると、学習指導案やルーブリックを含んだティーチング・ポートフォリオを、各種のプロフェッショナル・スタンダードに準拠しながら Web 上で作成・公開することができる（谷塚, 2004c）。

## 5 信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」との比較

### (1) 教育実習評価フォームを使った評価と Field Supervisor による参観・評価

信州大学教育学部における教育実習では、評価観点および評価規準については、実習校すなわち信州大学教育学部附属学校園がそれぞれ作成し、評価を行っている。一方、UIC の教育実習では、州のスタンダードに基づく評価フォームが公開されており、その評価フォームを用いて、実習校の Mentor Teacher だけではなく、大学の Field Supervisor による評価、そして教育実習生自身による自己評価も行われる。

日本においても、日本教育大学協会や国立大学教育実践研究関連センター協議会において「教員養成のモデル・コア・カリキュラム」や「教師の職能基準」が検討・提案されてきていることとあわせて、各都道府県教育委員会においても教員評価の観点や評価票が作成されつつある。

信州大学教育学部では、教育実習生の授業を 1～数回程度参観している学部指導教員が、教育実習生の評価にかかわることは現状では難しいように思われるが、一部の大学では、評価の観点や評価票が教育実習生に提示されていたり、統一した評価票を用いて学部教員・附属学校園教員・教育実習生の三者面談を通して評価を行ったりしている。信州大学教育学部においても、附属学校園における臨床経験科目に学部教員が積極的にかかわる体制を整えた上で、教育実習生（1年次の「学校教育臨床基礎」や2年次の「学校教育臨床演習」も含む）の成長を評価できるようなシステムを構築する必要がある。

### (2) 講義（セミナー）と実習（臨床経験）の組み合わせと、セミナーでの教科書の使用

信州大学教育学部では、[表3]のような日程で、「事前・事後指導」を実施している。平成 16 年度から、基礎教育実習が分割方式（7月に1週間、8～9月に約3週間）でおこなわれるようになったことから、7月の「事前・事後指導」で、基礎教育実習1週目の経験をふまえた授業を行えるようになった。

また、「事前・事後指導」では、現在は教科書を用いていない。現在のように講義と実習が並行して行われない日程では、教科書・指定図書を用いての研究的な省察はむずかしいところであるが、ED305

[表3] 平成16年度「教育実習事前・事後指導」の日程と内容

## ① 事前指導

月 日	事 項	内 容
4/21(水)	教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化	教育実習の意義を理解し、教職の専門的成長に教育実習が果たす重要性を認識することを通して、教育実習に臨む自己の目標を明確にし、教育実習への意欲を高める。
5/19(水)	教育実習生の生活と役割	教育実習生の一日の生活を撮影したビデオの視聴や先輩が作成した教育実習ポートフォリオの閲覧を通して、教育実践の魅力に気付き、教師としての教育実習生の立場や役割を自覚する。
5/26(水)	授業研究の意義と授業参観記録のとり方	ビデオ視聴による授業参観記録の演習を通して、授業参観記録をとるときの視点や記録方法を必要に応じて選択することができるようになり、授業研究の必要性を認識する。
6/2(水)	教育実習の心得と準備①	臨床経験科目の振り返りを通して、教師として求められる資質・能力が自己に身についているかを把握し、教育実習生としての成長過程を記録するポートフォリオの作成を開始する。
6/9(水)	事前実地指導	△会場：各実習校園 △内容：授業参観、全体指導、グループ・教科別懇談 ※注 協力校実習生：各実習校の指示に従って実施
6/16(水)	教科指導と教材研究①	指導案を作成するにあたっての目標分析の方法の理解を通して、子どもの学習過程を把握して学習成果を保証するための目標設定ができるようになる。
6/23(水)	教科指導と教材研究②	子どもの姿や実態に気づいて動ける教育実習生になるための教育評価の重要性を認識することを通して、子どもの学習活動を支援できる発問ができるようになる。
6/30(水)	教育実習の心得と準備②	より充実した教育実習にするために教育実習生を担当する教員が何を期待しているのかを知ることを通して、一人一人の子どもの実態に即した教育活動を行うための心構えを得る。
7/14(水)	教授方略の選択と学習環境の構成	実習第1週目の経験を具体的に振り返りながら、児童・生徒の学習を最大限に支援するための教授方略を選択したり学習環境を構成したりすることができるようになる。
7/21(水)	講演： 教育界の現状と望ましい教師像	長野県教育委員会・教学指導課長の講演を通して、現在の長野県教育が目指す方向を理解し、これからの教育界が求めている望ましい教師像へと近づくための自己の課題を見出す。
7/28(水)	指導と評価の一体化	個に応じた指導に生かしかつ自己の教育実践の向上を促すことができる評価の実際的な方法を理解した上で、評価規準に基づくルーブリックの作成をすることができるようになる。

## ② 事後指導

月 日	事 項	内 容
9/16(木) 14:00~	教育実習ポートフォリオのWebページによる共有	教育実習ポートフォリオをWebページ化する方法を理解して、自己の教育実習の成果を記録した教育実習ポートフォリオをWebページを介して公開できるようになる。
10/27(水)	教育実習Webポートフォリオの自己評価	作成した教育実習ポートフォリオを用いて教育実習をふりかえることを通して、自己の教育実習の成果を認識し、応用教育実習や今後の教育活動に向けての展望を得る。
11/24(水)	教育実習Webポートフォリオの相互評価	教育実習ポートフォリオを教育実習生同士で評価し合うことを通して、自己の教育実習の成果を再認識する。
12/22(水)	ポートフォリオを用いたオーセンティック評価	自己が作成した教育実習ポートフォリオを用いて教育実習を振り返ることを通して、学習と評価の一体化をはかるためにポートフォリオ評価を活用することができるようになる。



で用いていた『*Voices of Student Teachers: Cases from the Field*』のような教科書を開発し、教育実習生の実体験を教育実習前に知る機会を設けることによって、教育実習に対する期待をふくらませたり、教育実習に対する不安を軽減することもできると思われる。

### (3) ティーチング・ポートフォリオの作成

信州大学教育学部の「事前・事後指導」では、事後指導の課題として、「教育実習 Web ポートフォリオ」を作成し、Web 上で公開している<sup>11)</sup>。この「教育実習 Web ポートフォリオ」は、Web ページ化した指導案と、INTASC (Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium) スタンダードに基づくリフレクションシートから構成される。「教育実習 Web ポートフォリオ」を作成することによって、教育実習生は、客観的かつ広範な観点から、自己の教育実習経験をリフレクションすることができる。

日本においても、「TaskStream」のような Web 上のデジタル・ティーチング・ポートフォリオシステムを開発し、教員養成初期段階から導入・活用することによって、教員養成課程における自己の専門的な成長を記録することができ、リフレクションを促進することが可能になる。

## 6 おわりに

本稿では、信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」との比較をまじえながら UIC における ED315 「Fieldwork in the Elementary Education II」および ED325 「Student Teaching in the Elementary Grades」の特質を明らかにすることを通して、教員養成プログラム、特に教育実習関連科目を充実する方策を検討してきた。

アメリカ教育省他 (2004)で述べられているように、教師の質の向上や理数科系科目の充実など、米国では教育改革が進められている。そのような米国の教師教育においては、標準化 (Standard-based) と Web 化したポートフォリオの活用 (Evidence-based) という2つの潮流があるように思われる。

今後は、Standard-based と Evidence-based という流れを具現化した教員養成カリキュラムを、「臨床の知」を基本理念とする信州大学教育学部においても開発・実践していく必要がある。

## 謝辞

在外研究にあたり、受入研究機関として在外研究の機会を提供して下さいましたイリノイ大学シカゴ校教育学部・Dr. Victoria Chou 学部長、受入研究者としてお世話になった同教授・Dr. William H. Teale 先生、関連資料を提供して下さいました ED315・ED325 担当の Clinical Associate Professor・Dr. Eleni Katsarou 先生、ならびに ED315・ED325 を履修していた Senior のみなさんに厚く感謝申し上げます。

## 註

- 1) 平成 15 年度文部科学省在外研究員 (甲種・長期 (若手別枠)) として、平成 15 年 7 月 10 日から平成 16 年 4 月 9 日まで、「教員養成におけるティーチング・ポートフォリオの活用に関する研究」をテーマに、在外研究を行った。
- 2) 本稿で用いている「臨床経験」という用語は、信州大学教育学部における「臨床経験科目」と同様、UIC における「Fieldwork」「Field Placement」「Student Teaching」など、教職を志望する学生が教育実習の前段階としてまたは教育実習として実際の学校現場に参加する実践的活動を意味している。
- 3) UIC における教職科目群や臨床経験科目の構成については、谷塚(2004a)を参照されたい。
- 4) 2003 年秋学期は、ED315 が 3 つにクラス分けされていたのに対して、ED305 は 4 つにクラス分けされていた。これは、College

of Education への入学者増加に対応してクラスが増えたとのことであった。

- 5) 以下、本稿で取り上げている ED315「Fieldwork in the Elementary Education II」および ED325「Student Teaching in the Elementary Grades」の目的や授業内容等は、Dr. Eleni Katsarou 先生のセミナーを通して配布されたシラバスや資料に基づいている。このほかに、2つのクラスを別の Seminar Instructor 2人が担当しており、使用する教科書や内容等は若干異なっているとのことであった。
- 6) 本稿では、イリノイ大学シカゴ校教育学部の教員養成プログラムが初等教育段階に焦点を合わせているため、「child(ren)」「student(s)」ともに「児童」と訳出している。「learner(s)」も文脈により「児童」と訳出している場合もある。
- 7) UIC の Council on Teacher Education の Web ページ (<http://www.uic.edu/educ/cte/>) に、この評価フォームが掲載されており、ダウンロードできるようになっている。UIC の College of Education は 初等学校 (Elementary) レベルの教員養成が中心であり、中等学校 (Middle/Secondary) レベルの教員養成は各専門学部で行われているが、Council on Teacher Education が全学の教員養成体制をコーディネートしている。また、学生組織である Future Teachers Association が試験対策セミナーや各種イベントを開催して、教育実習や教員養成を支援している。
- 8) Illinois Professional Teaching Standards は、イリノイ州教育委員会 (Illinois State Board of Education) の Web ページ (<http://www.isbe.net/>) に掲載されている。また、この Web ページには、イリノイ州で用いられている各種スタンダードの他、教員免許の申請や更新に関する情報も掲載されている。
- 9) 春学期の最終週は 4 月下旬だったため、残念ながら、ED325 のポートフォリオ発表会に参加することができなかった。しかし、2003 年秋学期に出席した CIE511 (Cynthia Toback 先生担当) のポートフォリオ発表会に参加することができた。
- 10) <http://www.taskstream.com/>
- 11) <http://cert.shinshu-u.ac.jp/pt/portfolio/index.html>

#### 引用・参考文献

- アメリカ教育省他 (西村和雄・戸瀬信之編訳) (2004) 『アメリカの教育改革』, 京都大学学術出版会。
- 安藤輝次 (2000) 「教育実習生用ポートフォリオ: その実践と今後の課題」, 『福井大学総合自然教育センター年報』, 4, pp.55-73.
- Bullock, A. A. and Hawk, P. (2001) *Developing a Teaching Portfolio: a guide for preservice and practicing teachers*. Prentice-Hall.
- Campbell, D. M. et al., (eds.) (2003) *How to Develop a Professional Portfolio: A Manual for Teachers*, Third Edition. Allyn & Bacon.
- Costantino, P. M. and De Lorenzo, M. N. (2002) *Developing A Professional Teaching Portfolio: A Guide For Success*. Allyn & Bacon.
- Dice, M. and Goldenhersh, B. (2001) *How to Create a Professional Electronic Portfolio: A Guide for the Preservice and Beginning Teacher*. Kendall Hunt Pub
- Kilbane, C. R., and Milman, N. B. (2003). *The Digital Teaching Portfolio Handbook: A How-To Guide for Educators*. Allyn & Bacon.
- 黒澤俊二 (1998) 「小学校教育実習における評価活動の一考察 (1) — 教育実習における『自己評価表』の活用と『自己評価ハンドブック』作成の提案 —」, 『東京学芸大学附属学校研究紀要』, 25, pp.173-182.
- 永田智子・鈴木真理子・中原淳・浦嶋憲明・森広浩一郎 (2001) 「教員養成系大学生のティーチング・ポートフォリオと CSCL」, 『日本教育工学会第 17 回全国大会論文集』 (日本教育工学会), pp.135-136.
- 永田智子 (2002) 「ティーチング・ポートフォリオ実践研究の動向と課題」, 『日本教育工学会第 18 回大会講演論文集』 (日本教育工学会), pp.309-310.
- 永田智子・鈴木真理子・浦嶋憲明・中原淳・森広浩一郎 (2002) 「CSCL 環境での異学年交流によるポートフォリオ作成活動を取り入れた教員養成課程の授業実践と評価」, 『日本教育工学雑誌』 (日本教育工学会), 26(3), 215-224.
- 永田智子・鈴木真理子・望月俊男・西森年寿・中原淳・笠井俊信・加藤久恵 (2004) 「教育実習生のデジタル・ティーチング・ポートフォリオ」, 『日本教育工学会第 20 回大会講演論文集』 (日本教育工学会), pp.443-444.
- 永田智子・加藤久恵 (2003) 「教員養成プログラムにおけるティーチング・ポートフォリオの検討: 米国コロラド大学ボルダー校の事例を中心に」, 『学校教育学研究』 (兵庫教育大学学校教育研究センター), 第 15 巻, pp.137-146.
- 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト編 (2004) 「教員養成の『モデル・コア・カリキュラム』の検討 — 『教員養成コア科目群』を基軸にしたカリキュラムづくりの提案 —」, 平成 16 年 3 月 31 日。(日本教育大学協会『会報』第 88 号所収, pp.251-344)
- 貫井正納・三浦香苗・吉田雅巳 (2002) 「教育実習へのポートフォリオ評価の試行」, 『千葉大学教育実践研究』 (千葉大学教育

学部附属教育実践総合センター), 9, pp.197-208.

谷塚光典・東原義訓 (2002) 「ティーチング・ポートフォリオを活用した教育実習事前・事後指導の実践」, 『教育実践研究』(信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要) 3, 127-134.

谷塚光典 (2003a) 「体験的カリキュラムにおける自らの学びをみつめるポートフォリオ評価」. 平成 12~14 年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)(1)研究成果報告書『新免許法に対応する教員養成課程体験的カリキュラムの体系的構築に関する実践的研究』, pp.170-175.

谷塚光典 (2003b) 「全体会におけるポートフォリオを用いた授業内容」, 『学校教育臨床基礎』連絡会編『信州大学教育学部「学校教育臨床基礎」の実践 (平成 14 年度)』, 信州大学教育学部, pp.12-25.

谷塚光典・東原義訓 (2003) 「教育実習事前・事後指導における教育実習 Web リフレクションシートの作成とその分析」, 日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究』, 第 21 集, pp.91-107.

谷塚光典 (2004a) 「イリノイ大学シカゴ校における『Introductory Fieldwork』の特質 — 信州大学教育学部における『学校教育臨床基礎』との比較を通して —」, 『信州大学教育学部紀要』(信州大学教育学部), 第 111 号, pp.69-80.

谷塚光典 (2004b) 「教員養成の立場から — ティーチング・ポートフォリオを活用したリフレクションの促進 —」, 『中部教育学会紀要』, 第 4 号, pp.49-51.

谷塚光典 (2004c) 「ティーチング・ポートフォリオで見つめ直す教師の実践的指導力」. 増本健監修, 木村捨雄・東原義訓編著, 『確かな学力を育てる I T の先進的な教育利用 — I T ・新世紀型理数科系教育の挑戦 —』, 東洋館出版社, pp.170-176.

谷塚光典・東原義訓 (2004) 「教員養成初期段階における臨床経験科目に関するリフレクションを促すティーチング・ポートフォリオの活用」, 日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究』, 第 22 集, pp.167-179.

(2004年 9 月27日 受理)